

除去土壌等の中間貯蔵から今後の最終処分に向けての技術的課題

**除去土壌等の中間貯蔵から
今後の最終処分に向けての技術的課題**

<討論会座長>

勝見 武

（京都大学 大学院地球環境学堂 教授）

土木学会 エネルギー委員会

低レベル放射性廃棄物・汚染廃棄物対策に関する研究小委員会 副委員長

本研究討論会の主旨

【背景】

- 福島県内の中間貯蔵施設には、1F事故による放射性物質に汚染された除去土壌等が2024年3月末時点までに約1260万袋（環境省集計）搬入されている。今後の課題は、県外での最終処分を国の方針に基づいて実現するため、減容・再生利用方策や国民への理解醸成等を一層進展させ、国が新たに示した工程表に基づき、“除去土壌等の最終処分候補地の選定・調査を2030年頃に着手する”目標を円滑に実現させる必要がある。

【論点】

- 除去土壌等の県外最終処分に向けての取組み状況と今後の方向性について専門家の方々からそれぞれの立場より話題提供をしていただく。
- 併せて、国による中間貯蔵施設や種々の実証試験等に係る土木技術等の開発・適用事例などに関する調査報告書を当委員会で取りまとめ公表の準備中であり、その概要を報告する。
- さらに、安全でかつ合理的な最終処分の円滑な実現に向け、減容・再生利用の促進と最終処分の技術方策の高度化・確立とともに、広範な国民の理解醸成を図ることが不可欠であり、それらの方向性や今後の課題などについて、パネリスト間で、また視聴者も交えて質疑応答を行っていただく。

【パネリスト】

＜座長＞ **勝見 武** 京都大学 大学院地球環境学堂 教授
（土木学会 エネルギー委員会 低レベル放射性廃棄物・
汚染廃棄物対策に関する研究小委員会 副委員長 ）

＜話題提供者＞

土宏之 清水建設(株)土木技術本部 部長（電力・エネルギー土木
技術担当）／当研究小委員会分科会1（除染廃棄物）主査

中野哲哉 環境省 復興再生利用・最終処分事業推進担当参事官

遠藤和人 国立環境研究所 福島地域協働研究拠点
廃棄物・資源循環研究室 室長

保高徹生 産業技術総合研究所 ネイチャーポジティブ技術実装研究
センター 副センター長

話題提供内容

1) 土宏之（清水建設(株)）／当研究小委員会分科会 1 主査)

「中間貯蔵施設への土木技術等の適用事例の調査取りまとめに関する概要報告」

2) 中野哲哉（環境省）

「中間貯蔵除去土壌の県外最終処分に向けた今後の技術的検討事項」

3) 遠藤和人（国立環境研究所）

「県外最終処分場の施設成立性評価に関する一考察」

4) 保高徹生（産業技術総合研究所）

「県外最終処分の社会受容性とステークホルダー・エンゲージメント」